



多摩ブルー・グリーン倶楽部 会報誌

2020
SEPTEMBER
Vol. 2

Tama Blue & Green Club Magazine

たまの力

INTERVIEW

- P2 トップリーダーに聞く**
株式会社アスペクト 代表取締役社長 早野 誠治 氏
- P3 新事業にチャレンジ**
株式会社タックス 代表取締役 安室 守 氏
- P4 事業承継を経験して**
武州工業株式会社 代表取締役会長 林 英夫 氏
- P5 グローバル企業の最前線**
有限会社エニシング 代表取締役社長 西村 和弘 氏
- P6 地域貢献**
学校法人武蔵野東学園 理事長 寺田 欣司 氏
- P7 倶楽部事業レポート**



お客さまの幸せづくり
たましん

新規分野である3Dプリンター市場で 高機能・低価格化の実現を目指す

危機はチャンス！ 壊滅的状況下で 自社製品開発に着手

ハイエンド3Dプリンターの開発・製造・販売を行う株式会社アスペクト。2006年に日本版Powder Bed Fusion (PBF)装置「SEMPliceシリーズ」を世に送り出し、2011年にはさら



はの せいじ 株式会社 アスペクト 早野 誠治氏 代表取締役社長

福岡県出身。早稲田大学工学部卒業後、三菱商事株式会社に入社し、光造形装置SOUP開発に携わる。1996年に退社し株式会社アスペクトを設立。3Dプリンター開発の第一人者として知られる。

代理店として活動を開始しました。しかし、販売代理権の獲得から3〜4年後に米国のパートナー企業がM&Aで競合他社に吸収合併され、販売代理権をなく奪われました。この壊滅的な状況に置かれたとき、「危機はチャンス」と居直り、自社製品の開発に着手しました」

に精度と生産性を向上させた次世代PBF装置「RaFaEシリーズ」を製品化。同社はこの製品によって、東京都ベンチャー技術大賞(2012年)をはじめ数々の賞に輝く。当然のことながら開発には苦労や失敗もあった」と早野誠治社長は言う。「創業当時、資金不足から装置開発を断念し、米国の3Dプリンター装置の販売

「危機だからこそ前へ進む！」と大きく舵を切ったことが会社の運命を変えた。「社員のために単なる下請け企業として承らえることも大事です。しかし、できれば何か一つでも自社ブランドの製品を持つことが望ましい。製品開発の難しさやブランド化の大変さの後に、事業や会社の永續性や独立性が得られます」と、早野社長

は自身の経験から、地域企業の経営者に向けて、自社製品開発の重要性を説く。

「おもしろ、おかしく」 仕事をするのが大切

同社の3Dプリンター装置は、粉末材料をレーザーの熱で溶かして積層する方法で、材料には各種樹脂粉末が用いられ、最終製品をつくる3Dプリンターとして注目を浴びているが、従来の射出成型装置と比較すると製品コストは割高である。そこで「目下の目標は低価格化装置の実現」と早野社長。

「新規分野である3Dプリンター市場は、日進月歩。今のままでいいという保守的な考えでは、生き残っていくのは困難です。お客さまに当社の製品を使って良かったと思っただけには、3Dプリンターの機能や材料に常に新しい魅力を生み出していくとともに、常日頃から改良開発を行い、製造価格の低減を図る必要があります」

会社の目標実現に向けて早野社長は、「社員の一人ひとりに『おもしろ、おかしく』仕事をしてほしいと願っている。それが叶えば、立場を越えた発想や意見を持つようになり、モチベーションも高まると考えているからだ。また、自らが社長や役員、部長、課長の立場でものを考え、コミュニケーションを取り、行動できる社員になってもらいたい」と語ってくれた。

社長のひとこと

世界や社会の変動は常にダイナミックであり、停滞することはないと思います。とくに技術開発においては、常に一つ上の立場や能力になろうと努力することが大切。社員には、世界に目を向け、技術や市場の変化に注目してもらいたいと思います。

第11回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

株式会社 アスペクト

<http://aspect.jp.com>

東京都稲城市東長沼3104-1 稲城ガーデンア式番館101

TEL:042-370-7900 FAX:042-370-7901

E-mail:rq1@aspect.jp.com

●創業:1996年11月 ●従業員数:41名(2020年8月末現在)





新しい発想と アイデアで勝負!

開発者の意図を大切に魂のこもったものづくりを目指す

株式会社 **タックス**
代表取締役
やすむる まもる
安室 守氏

東京都八王子市出身。立正大学中退後、1973年5月にビニール加工会社(有)旭ビニールの代表として義父より会社を引き継ぐ。2006年(株)タックスと合併。

磨きやバフがけは不要 時間と労力が節約できる セラミック铸造

創業地の八王子でビニール加工業からスタートした株式会社タックス。現在では自動車や二輪車、医療機器やロボットなどのメーカーから依頼を受け、金属注型、精密铸造による各種部品の試作品製造をすべて手づくりで行っている。

特に注目を浴びているのが、磨きやバフ掛けがいらぬ「セラミック铸造技術」だ。この技法の特徴や開発動機について同社の安室守社長に聞いた。

「機械部品を製造する際、金型をつくる前に試作品をつくって試験的に組み立てを行います。その部品がスクリューやフロペラ、エアー送風装置など三次元的な曲面を有する場合は、その形状から砂型か総削りでつくられることが一般的でした。しかし、砂型で作る場合は最後に表面を磨く必要があります。総削りで作る場合は時間と労力が必要になるので結果的にコストがかかりすぎていたのです。セラミック铸造は、それらの課題をなんとかしたいという思いで開発に取り組みました。この技術は磨きやバフ掛けが不要なうえ、試作の段階で不具合が生じた場合でも容易に設計を変更できます。」

つまり、金型なしで製作できるため、新製品製造において工程の短縮が可能にな

り、コスト削減が実現するのだ。 お客さまの意図に 付加価値をつけて 製造するのが私たちの仕事

試作品づくりは、同じ製品をつくることほとんどなく、製品の形状や素材、ニーズによって、その都度づくり方や工程、材料の配合、型組時の工夫が違ってくる。

「お客さまの意図の微妙なニュアンスを汲みつつ、そこに付加価値を付けて製造するのが私たちの仕事です。お客さまと意見が一致したときは、互いに握手して喜ぶこともありますよ」と安室社長。

納期が短いのに設計変更があったときなどは、どうすれば間に合うか、どれだけスピーディーに納品できるかをスタッフ全員で知恵を出し合って乗り切るのだそう。さらに、このコロナ禍で同社の取引先であるメーカーも体制の変更をせざるを得ない状況にきている。

「自動車メーカー各社は、100%海外に依存していた部品生産のうち40〜50%を国内生産に変更するよう動いています。しかし日本は人件費が高いため、海外の生産コストに合わせられるようできるだけ機械化・ロボット化して製造現場のコスト削減が進められています。」

当然、部品の試作品づくりもコスト削減が急務である。だからこそ「新しい発想とアイデア」が求められるのだ。

第5回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

株式会社 タックス

東京都八王子市長沼町1305-29
TEL:042-649-5461 FAX:042-649-5462
E-mail:taks.com@iaa.itkeeper.ne.jp
●創業:1988年8月 ●従業員数:7名(2020年8月末現在)



社長のひとこと

セラミックカーボン铸造は、コストや時間の削減のため、「いかに工程を減らし効率的に生産するか」を目標に据えて開発しました。この視点は、当社のもうひとつの事業であるビニール加工業の生産性向上においても生かされています。



武州工業株式会社

代表取締役会長

はやし ひでお

林 英夫氏

東京都青梅市出身。日本大学生産工学部卒業後、カメラメーカー勤務を経て、1976年に武州工業に入社。1992年6月に社長就任し、2020年6月に会長就任。

社会情勢が厳しい中での事業承継

今こそ「変革」のタイミング

新たな時代を拓いてほしい

創業から約70年、金属パイプ加工・板金加工による製品の開発・生産・販売を行う武州工業株式会

社。国内生産にこだわり、高い技術力と独自に確立し

た「一個流し生産体制」によって高品質・安心・安全を担保しつつ、世界で戦えるLCC（ローコストカントリー）価格を実現し、国内外から高い評価を得ている。今年6月、同社では前社長の林英夫会長から長男の林英徳氏へとバトンが渡され、

苦しい時代だからこそ
柔軟な若者の力が必要

英徳氏が3代目社長に就任した。コロナ禍の混乱の中の事業承継。なぜこのタイミングなのか、林会長に尋ねるとこのように答えてくれた。

「私が先代から事業を受け継いだのは37歳のときでした。当時バブル崩壊直後で、承継後8年にわたって売り上げ減少が続きました。しかし苦しいときこそ柔軟な考え方ができる若者の力が必要と、私自身の経験から確信しています。今、息子は当時の私と同年代です。コロナ禍で非常に難しい時期ではありますが、一方ではこれを機に新たな時代がつくられていくとも感じています」

同社の主力事業は自動車部品や医療機器部品だが、今後はそれらも含めて様々な業界がこれまで通りとはいかないと林会長は予測する。「事業承継のためには変革も重要。今後はSDGsに代表される環境にやさしい経営で、次世代に引き継げる企業へと育ててもらいたい」と現社長へエールを送る。

後継者が自身の力で
実績を上げ親族内承継を
納得してもらう

現社長の英徳氏が同社に入社したのは27歳の頃。「後継者として育てたのではなく、彼自身の意思で当社を選びました」と林会長。すぐに社内に入社させるのではなく、事前に3年間、製造業者向けのサービスを行う企業で経験を積んだ後の入社である。

「社員にとって親族内承継はマイナスではありません。それを覆し、社員に納得してもらうためには、本人が自分の力で実績を示す他ありません。実際、入社後すぐに立ち上げから任せられた医療機器事業が順調に成長しており、現在では社内の理解を得られたと思っています」

第13回多摩グリーン賞 最優秀賞受賞

武州工業株式会社

<https://www.busyu.co.jp>

東京都青梅市末広町1-2-3

TEL:0428-31-0167 FAX:0428-31-3774

E-mail: hayashi@busyu.co.jp

●創業：1951年12月 ●従業員数：150名(2020年8月末現在)



社長のひとこと

当社のビジョンは「地域の雇用を守る」こと。コロナ禍で世界中が経済危機に襲われている中でも雇用を減らすことはせず、これをひとつの契機に新事業にチャレンジし、『300年企業』を目指したいですね。

日本の伝統的かつ良質なものを 世界に発信したい

「帆前掛け」は クールニッポンを表現する プロダクツ

有限会社 エニシング
代表取締役社長

にしむら かずひろ
西村 和弘氏

広島県出身。中央大学商学部在学中にアメリカに留学。大手食品メーカーを経て、2000年に独立開業。2005年から帆前掛けの専門店として販売をスタート。



メディア特需の利益を 次のステップに生かす

かつて酒屋や米屋などで使われていた帆前掛け。丈夫で実用的、かつ屋号やロゴマークが施された宣伝ツールとしても機能する作業用エプロンだ。

有限会社エニシングは、その帆前掛けを現代に蘇らせ、一枚からオリジナルデザインでオーダーできるシステムを構築。日本全国はもちろん、パリ、ロンドン、ニューヨーク、イタリアなどでも販売し、グローバルに展開している。

なぜ同社は「帆前掛け」に着眼し、さらに海外展開に踏み切ったのか、西村和弘社長に聞いてみると、こんな答えが返ってきた。

「創業当初は漢字Tシャツを中心に製造販売していて、帆前掛けは関連商品のひとつでした。その頃の前掛けの実績は月に10枚程度だったのですが、あるとき立て続けにメディアで取りあげられたことで、急激に売上が伸びました。しかしメディアの影響による一過性の特需のようなものですから、そのときの利益を次のステップに有効活用したいと考え、海外展開に踏み切ることにしました」

もともと「日本の伝統的かつ良質なものを世界に発信したい」という思いがあった西村社長。このときが行動と思いが合致したタイミングだったという。

海外での飛び込み営業が 次のチャンスと呼んだ

現在、海外への輸出枚数は年間3000〜4000枚。全体売上の7〜8%とのことだが、その評判はすこぶるいい。展示会では、あちこちから「クール！」と声がかかり、たくさんの人にスマホで撮影される人気ぶり。聞けば営業活動も独創的でアイデアにあふれている。

「ニューヨークでは、事前に人気の日本居酒屋風のお店を調べ、各店舗の名前を入れた前掛けを15枚ほど作って持っていく、飛び込み営業をして配りました。するとある飲食店の方が『こんなユニークな活動をしているなら、新聞に取り上げてもらったら?』と新聞社を紹介してくれました。そこからさらに宣伝活動が広がっていききました」

この秋からはMOMA（ニューヨーク近代美術館）のショップで、同社の帆前掛けの販売がスタートする。

「これを機にさらに海外のデザイナーの方たちに見てもらう機会も増えます。そういう人たちとしっかりネットワークを築き、帆前掛けはもちろん、その生地をファッションやインテリアなどにも広く応用して新しい製品をつくり、日本から世界へ発信していきたいですね」

明確な目標を掲げて、エニシングは次のチャレンジに踏み出している。

第9回多摩グリーン賞 優秀賞受賞

有限会社 エニシング
<http://www.anything.ne.jp>

東京都港区元赤坂1-7-10-902
TEL:03-5843-0247 FAX:03-5843-0248
E-mail:web@anything.ne.jp

- 創業：2000年11月
- 従業員数：8名（2020年8月末現在）



社長のひとこと

「多摩グリーン賞」受賞から10年が経ちました。この賞は志や企画も含めて、素晴らしい企業が表彰されています。世の中が一変してしまった今こそ、この良質なネットワークが果たせる役割があるのではないかと考えています。

自閉症児と健常児が共に学ぶ

「誰もが幸せになる教育」とは

自閉症児の自立を目指し
国内外で特異な教育活動

健常児と自閉症児がともに学ぶ「混合教育」を実践する、世界に例を見ない教育で著名な学校法人武蔵野東学園。

1964年に幼稚園を創立、その後も小・中学校、高等専修学校を創立、さらには療

育・保護者支援・支援者養成など幅広く活動する教育センターも設立した。また、米国マサチューセッツ州に自閉症児教育のための「ポストン東スクール」を開設し、国際的な教育活動も行っている。

学園の教育の特徴について寺田欣司理事長はこのように語る。

「学園の自閉症児教育は『生活療法』の実践により、個々の自閉症児の特徴を見極め、子ども一人一人の個性を見据えて彼らに自分の力で障害を乗り越えさせるプログラムが特徴です。

自閉症児は他人とのコミュニケーションが苦手なため、障害児と見られることが多いのですが、彼らは穏やかで素直な性格。ひたむきで、人と争わず、うそをつくことを知らない、しかも健常児にはほとんど見られない特異な能力や才能を備え、周囲を驚かせる子もいます」

学園には約1600名の児童生徒が在籍し、約1/3が自閉症児だ。自閉症児は健常児から刺激を受けて、勉強だけでなく、他者とスムーズにコミュニケーションができる力を身につけるといふ。一方健常児は自閉症児が持つ穏やかな人間性、そして特異な才能を知って彼らを仲間として

尊重し、その交流を通じ、障害者に優しい、人を差別しない心を養う。

今後は学園の活動を通して
地域に貢献する人材を育成

「自閉症児の自立」を目指す教育は、健常児にも良い影響を与えているようだ。

他者との対話に慣れてきた自閉症児は、彼らの持つ独特の性格や才能、能力を社会生活に生かして社会自立の道を歩む。そして彼らと交流する健常児たちは、自閉症児たちの優れた面を知り、偏見の目で見ることなく受け入れ、彼らから刺激を受け学業に励み、優しく接する豊かな人間性を育む。

自閉症児と健常児が互いに良い影響を与え合う、これがインクルーシブ教育のバイオニアである武蔵野東学園の姿だ。

寺田理事長に学園の次のステップを聞くと、「こんな答えが返ってきた。

「地域の企業経営者の皆さんには学園の教育のあり方や、偏見の目で見られがちな自閉症児の真の姿を理解いただき、彼らの企業就労にお力を貸していただければ幸いです。これからも自閉症児と健常児の双方を導く指導者、そして地域社会へ貢献する人材を育てていきたいと考えます」

学校法人 武蔵野東学園

理事長

寺田 欣司氏

静岡県出身。東京大学法学部卒業。旧三和総合研、富士通総研の取締役兼研究主幹、中央大学、静岡産業大学講師として教育研究活動に携わり、その間執筆、講演活動を行ってきた。2003年、武蔵野東学園理事長に就任。

第6回多摩グリーン賞 最優秀賞受賞

学校法人 武蔵野東学園

<http://www.musashino-higashi.org>

東京都武蔵野市緑町2-1-10

TEL:0422-52-2211 FAX:0422-53-1090

E-mail:terakin@aol.com

●創立:1964年11月 ●教職員数:277名(2020年8月末現在)



理事長のひとこと

自閉症児の特性や能力を社会自立や就労に結びつけるには、コミュニケーション力を育てるための長い時間が必要です。私たちは集団での刺激(集団力学)を活用した「体力づくり」「心づくり」「知的開発」の3つを柱として指導を行っています。

Tama Blue&Green Club Business Report 倶楽部事業レポート

多摩ブルー・グリーン倶楽部は、多摩ブルー・グリーン賞受賞企業と選考委員、後援団体による組織です。
受賞企業の経営課題の解決と相互連携および地域経済の振興を目的に、事業を通じて会員相互の連携を深めます。
2020年度に実施した事業の一部をご紹介します。

1 明星大学「中小企業経営論」・法政大学「中小企業論」〈社会貢献〉

多摩ブルー・グリーン倶楽部会員が明星大学経営学部の学生と法政大学社会学部の学生に講義を行いました。「自社のビジネスモデル」や「企業経営の実態」などを通じて、自社の魅力を発信していただきました。

参加者の声

東成エレクトロビーム株式会社
代表取締役社長 **上野 邦香 氏**

Zoom講義という反応が見えない中、講義直後、後日にも沢山の質問をいただいたことで、学生さんの真摯な姿勢に感動しました。この経験をベースに、引き続き社業に邁進してまいります。ありがとうございました。

■ 東成エレクトロビーム株式会社 <https://www.tosei.co.jp>

参加者の声

株式会社イズミ
取締役環境事業部長 **清水 弘幸 氏**

今回、明星大学、法政大学の両校で登壇させていただき、とても良い経験でした。学生の皆さんの企業の実態/経営を知りたい強い思いが、ビデオ/オンラインでもQ&Aや提出課題の回答などから伝わり、企業への期待を改めて考える機会になりました。

■ 株式会社イズミ <http://www.izumi-co.com>

参加者の声

エム・ケー株式会社
常務取締役 **小林 久恵 氏**

人・地域をナンバー1に想っている企業、時代が変わっても順応して現代社会の課題に対して貢献するから100年企業、あらゆる人にとってなくてはならない小さな大企業等、受講後の純粋な学生のコメントはエム・ケーにとって財産になる貴重な機会でした。

■ エム・ケー株式会社 <http://mk-corp.co.jp>

参加者の声

リジェンティス株式会社
代表取締役 **柴 肇一 氏**

大学発創業ベンチャーとして、起業から挫折を乗り越えての事業化と今後の方向性を話しました。創業期の苦労話だけでなく、事業が軌道に乗った時点で、一中小企業として何をを目指すのかを、学生にも考えていただく機会になれば有り難いです。

■ リジェンティス株式会社 <https://www.regenetiss.jp>

参加者の声

FSX株式会社
代表取締役社長
兼 CEO **藤波 克之 氏**

母校で講演させていただきとても光栄です。初めてのオンライン講演となりましたが、とても元気良くレベルが高い質問を複数いただき、若い活力に大変感心いたしました。少しでも学生の皆様にとってお役に立てれば嬉しいです。

■ FSX株式会社 <http://www.fsx.co.jp>

参加者の声

金澤建設株式会社
代表取締役社長 **金澤 貴史 氏**

リモートの良さもありましたが、やはり実際に会う事や空気感を感じる事がとても大切な事だと改めて感じました。今後色々な面でリモート対応が必ず増えますが、ルールを守って対面する大事さを学生達には忘れないで欲しいと思います。

■ 金澤建設株式会社 <http://kanakk.com>

担当教員のコメント

明星大学特任教授
森屋先生

経営者の皆さまより事業の取組みなどをお話しいただくことで、学生にとって地域と共に生きる中小企業について知り、就職活動への見直しの機会になったと思います。授業へのご協力ありがとうございました。

法政大学兼任講師
工藤先生

本講義は、多摩地域を代表する中小企業の経営者から直接話を伺える授業として、非常に人気があります。経営者の自社ビジネスへの拘りや熱意が伝わってくる、経営者の苦労と楽しみが伝わってくる、中小企業の魅力がわかる、と学生は毎回、ゲストスピーカーの講演に興味津々です。

2 多摩未来奨学金の協力〈社会貢献〉

昨今のコロナ禍によって経済的な理由により就学が困難となっている学生への支援を目的に、給付型の奨学金制度である「多摩未来奨学金」への寄附をご案内しました。17社より合計119万円のご寄附をお申し出いただきました。

医療法人社団在和会
立川在宅ケアクリニック
株式会社シーズプレイス
金澤建設株式会社
FSX株式会社

高千穂精機株式会社
新協電子株式会社
武州工業株式会社
東京システム運輸
ホールディングス株式会社

東成エレクトロビーム株式会社
日本分析工業株式会社
株式会社未来樹脂
株式会社アトム精密
たなべ物産株式会社

株式会社イズミ
株式会社メルヘン
京西テクノス株式会社
株式会社キャリア・맘
(順不同)

「第29回例会」のご案内

日時 2020年10月12日(月)
14:00～17:00 (受付開始 13:30)

場所 たましん本店4階 大会議室
(東京都立川市緑町3-4)

内容 第1部 ロバート キャンベル氏講演
第2部 第17回多摩ブルーグリーン賞
最優秀賞受賞企業2社による
プレゼンテーション

申込方法

以下のURLの受付フォームにて、10月2日(金)までにお申し込みください。
https://www.tamashin.jp/bg-club/event_app/reikai.html



■ 講師:ロバート キャンベル氏 (日本文学研究者・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館長)

近世・近代日本文学が専門で、とくに19世紀(江戸後期～明治前半)の漢文学と、漢文学と関連の深い文芸ジャンル、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビでMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組企画・出演など、さまざまなメディアで活躍中。2017年4月から現職。ニューヨーク市生まれ。カリフォルニア大学バークレー校卒業。ハーバード大学大学院東アジア言語文化学科博士課程修了、文学博士。

著書に『井上陽水英訳詞集』(講談社)、『東京百年物語』(岩波文庫、共編)他



※新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、中止や延期、内容が一部変更となる場合があります。

多摩ブルー・グリーン倶楽部事務局

多摩信用金庫 価値創造事業部

東京都立川市緑町3-4

TEL: 042-526-7728 E-mail: bg-office@tamashin.net